

ごあいさつ

私を育ててくれた三浦のためにできることを、ずっと考えてきました。
『市民協働の力で、三浦をもっと住みやすい地域にしていきたい』
この想いを胸に、無所属で市政に挑戦する決意をしました。
いわゆる地盤（組織）、看板（知名度）、鞆（資金）はありません。
経験も、能力も、まだまだ未熟です。
でも、若さと体力と、三浦への情熱はあります。
全身全霊で取り組んでまいります。

石崎遊太

みうらみらいラボ 代表
いしざき 遊太



31
歳

みうらみらいラボの会員を募集しています！

みうらみらいラボは、代表のいしざき遊太をとことん使い倒しながら、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ための政治団体です。
詳細および入会のお申し込みにつきましては、右のQRコードのページをご確認ください。
※ご連絡いただければ紙の申込書もお届け可能です。



ゆ
う
た

遊太

みうらボ
Report

Vol.
1

1 子育て支援

安心して子育てができることは、
良い地域の必須条件です。
妊婦さんが安心して暮らせる、
共働きがしやすい環境を整えます。
市内に産科が無い中、三浦市に住む
妊婦さんの不安を解消することは
もちろん、新たに子育て世代が移住
してもらうために何ができるのか。
当事者として向き合っていきます。

2 教育の充実

教育はこどもの未来への投資です。
基礎学力の向上だけでなくとどまらず、
三浦ならではの食育や海洋教育、キャ
リア教育の推進はもちろん、語学やプ
ログラミング教育も強化します。
教育政策の成果が目に見えるのは、
10年以上先の話になるでしょう。
だからこそ、31歳の私が責任を
もって取り組みます。

3 福祉の拡充

高齢者や障がい者に優しいまちは、
すべての市民にとっても過ごしやす
いまちです。
高齢者が抱える諸問題（介護や病気、
日々の買い物負担、一人暮らしの
不安等）に寄り添います。
また、障がい者が地域の一員として
暮らせるよう、自立支援を行いながら
地域交流を後押しします。

4 市民協働の推進

「自分たちの地域のことは、
自分たちが主体になって決める」
当たり前のことのようにですが、
そんなに簡単な話ではありません。
市民一人ひとりが三浦の今と未来に
ついて考えられるよう、徹底した
情報公開を進めます。
その上で、それぞれの意見や思いが
集約できるような仕組みを作ります。

5分でわかる!!みうらの今とこれから ～三浦市のこどもにまつわる話～

いしざき
presents

こどもの減少について

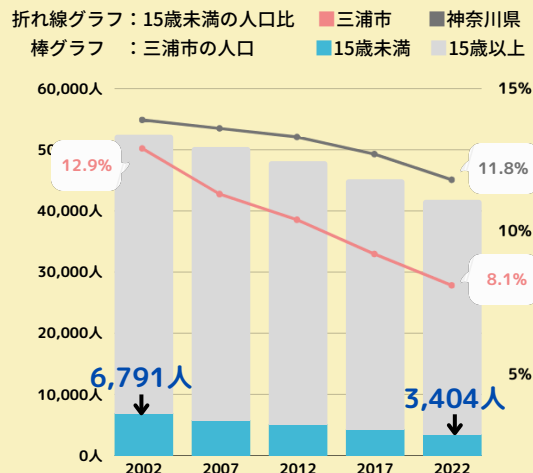
「三浦市は少子高齢化が著しい」とよく言われますが、実際の数値はどうなのでしょう。少子化に焦点を当てて、市内に住む15歳未満のこどもの割合を、ここ20年の推移として右のグラフにまとめてみました。直近の2022年で8.1%と、神奈川県の数値（11.8%）や全国の数値（11.9%）と比較しても、三浦市はこどもの割合が少ないことがわかります。

少子化が進むと経済規模が縮小し、若者が市外へ流出する傾向が強まります。結果的に高齢化と過疎化が進み、さらに少子高齢化が加速するという負のスパイラルが生まれてしまいます。これは三浦だけではなく日本全体の問題ですが、国が今になって「異次元の」少子化対策を行ったところで、こどもの人口がすぐに増えるわけではありません。ですから、今いるこどもや子育て世代の若年人口をいかに他の自治体から取り込めるかが重要になっていきます。

三浦には素晴らしい歴史と風土があります。これらの魅力をどうやって体感してもらい、移住までの行動に移してもらえるのか。ここが三浦市にとっての最重要の政策となるでしょう。

妊娠である妻とともにUターンしてきた私の感覚として、出産や子育てに関する不安は大きいものでした。また、待機児童がゼロであることは素晴らしいことですが、今後の持続可能性についてはどうでしょうか。保育士さんや放課後児童支援員さんの待遇改善も急務です。

とにかく、移住者誘致は子育て支援とセットで考えなければならない政策だと考えます。



※総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」をもとに、いしざきが独自に作成

こどもの地域の居場所はどこに

小さい頃に遊んでいた児童館が廃止されてしまっている他、解散した地域のこども会も少なくありません。三浦に住むこどもたちの地域の居場所はどのようなのでしょうか。

「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。」という条文から始まる児童福祉法では、保護者だけでなく、国や自治体が児童の心身ともに健やかな育成を支える必要があることが明記されています。

厳しい財政状況の中で簡単な話ではありませんが、もう一度児童福祉法の理念に立ち返り、家と学校以外の地域におけるこどもたちの居場所について、真剣に考え直す必要があると思います。これまでこういった状況に気付けなかった私自身も責任を感じながら、取り組んでいきたい課題です。

小学校統廃合をめぐる時系列整理

このような流れの中で、2019年6月に三浦市教育委員会から公表されたのが、『三浦市学校教育ビジョン（案）』でした。確認しておかなければならないのは、同案がこのタイミングで突然浮上してきたような類のものではない、という事実です。順を追って見ていきます。

2008年1月に三浦市小中学校教育環境検討委員会より提出された『三浦市立小中学校のより良い教育環境のために（提言）』では、人口減少に歯止めがかからないことや今後あるべき学校の姿が確認されました。この提言を受けて市教育委員会が発表した『三浦市立小・中学校の適正規模・適正配置及び学校施設の活用に関する基本方針』では、当時の学校配置を維持しながらも、状況によっては学校の規模や配置の適正化（わかりやすく言えば統廃合）についても検討に入りうることを示唆されています。この方針の通り2014年に行われたのが、三崎中学校と上原中学校の統合でした。記憶に新しいと思います。

その後、市内小学校の多くが全年1学級となること、さらに1学級の児童数が10名に満たない学年が出てくる状況となることを踏まえ、2015年から小学校適正配置・適正規模に関する検討が始まりました。

2016年には保護者や教員に対するアンケート調査が行われ、その後さまざまな関係者との協議を重ねながら2019年8月に策定されたのが、『三浦市学校教育ビジョン』です。内容を一言でまとめれば、「1学年複数学級の小学校」で学べる環境を整えるために、2025年を目途に「1中学校区1小学校」の教育体制をつくること、になります。結果として多くの不安の声や反対意見を受け、2022年11月に同ビジョンは見直しの方針が確定しました。現在は再検討が進められている段階です。

年	月	誰が	どうした
2019	6月	市教育委員会	「三浦市学校教育ビジョン（案）」の公表
	8月	同上	同案に関するパブリックコメント実施（17件の意見あり）
	10月～	同上	「三浦市学校教育ビジョン」の策定
		市民有志団体など	意見交換会などが各地で実施
2020	7月	市教育委員会	南下浦市民センターにて説明会実施（以後も別会場で順次実施）
	12月	都市厚生常任委員会	同ビジョンの再考を求める陳情の審議開始
		市民有志団体	名向小学校の存続を求める署名の提出
2021	2月	同上	三崎小学校の存続を求める署名の提出
	3月	同上	神崎小学校の存続を求める署名の提出
	7月	市長	段階的な統合についての検討を表明
2022	3月	市教育委員会	保護者向けのアンケート実施
	8月	同上	保護者向けアンケートの結果公表
	11月	同上	学校教育ビジョンの見直し方針を表明

※いしざき調べ（2023年1月時点）

上の表は、同ビジョンが公表されてからの経緯を時系列にまとめたものです。スペースの問題もあり、本ビジョンの内容についての是非はあえて論じません。私がこの一連の流れを見返しながら危惧しているのは、「行政と市民の意識の不一致を埋め合わせていくプロセスの機能不全」が解消できていないことです。

行政としては、コロナ禍で色々と苦心する部分はあったでしょうが、同ビジョンの本質を理解してもらうための伝達やヒアリングの手段は、他にも選択肢があったと思います。市議会としては、行政に対して慎重な検討を訴え続けたことは評価できますが、冒頭に列挙したような以前からの経緯を認識していたのであれば、もっと早いタイミングで行政や市民に対して働きかけられたことがあったのではないのでしょうか。

また、市民有志での意見交換会や陳情を通じて、行政の提示した施策に歯止めがかけられたという過程自体は、素晴らしいことです。しかし、統廃合の方向性を止めることが本当にこどもたちの利益になるのかについては、市民一人ひとりがもう一度よく考えねばなりません。

繰り返しになりますが、今回の統廃合をめぐる問題は、同ビジョンが示される前から、私たち大人が真剣に向き合わなければならなかったテーマです。見直し案が提示されるまでの間、私もさらに理解を深めてまいります。

◆ いしざき遊太 プロフィール ◆

1991年4月3日生まれ。上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。

※HP、各種SNSのリンクページに飛びます▶



皆様の
ご意見ご感想を
お待ちしております！

